

第4編 近代

はじめに

第1章 近代三股のあゆみ

第1節 明治維新と近代国家の成立

1 新政府成立と初期行政

大政奉還と王政復古 / 明治政府の宗教政策 /
鹿児島藩の動向 / 都城・三股地域の廃仏毀釈 /
三股の寺院

2 藩政改革

府藩県三治制と藩治職制 / 版籍奉還 /
鹿児島藩の藩政改革

第2節 三股の近代行政の始まり

1 三島通庸の登場

三島の略歴

2 三島地頭の改革

三島地頭の着任と反発 / 三郷分割と検地

3 下三俣郷の建設と山王原

下三俣郷の検地 / 山王原建設 /
「三股開拓之碑」に見る三島の業績
コラム① 三島家と三股のその後

第3節 廃藩置県と三股

1 都城県の設置と三股

廃藩置県の断行 / 日向国の廃藩置県と都城県 / 都城県政
コラム② 桂久武と三島通庸、先輩後輩の絆
戸籍法と地方統治 / 都城県の統治組織

2 初期宮崎県の三股

都城県から宮崎県へ / 県庁造営とその意義 /
都城支庁と大区小区の改定

3 鹿児島県の三股

宮崎県廃県と鹿児島県への併合 /
宮崎支庁設置と大区の変遷

第4節 西南戦争と三股

1 薩摩軍動き出すー熊本へ

倒幕までの優等生が不満を募らせる /

西郷の下野と独立王国鹿児島 / 政府へ尋問の筋これあり

2 三股からの出兵

早田進の手記にみる戦争の経過 / 政府軍との戦い始まる /

田原坂の激戦

3 都城・三股での戦い

退却ー都城へ / 危うく捕虜に、三股での戦い

4 従軍碑が語るもの

戦争の終焉ー薩摩軍に従軍した人々の思い /

西南戦争が残したもの

第5節 三股村の誕生

1 地方三新法体制

大区小区制の廃止と新体制 / 分県運動と都城・三股地域 /

分県の成就

2 宮崎県の再置と三股

宮崎県再置と諸県郡の分割 / 新たな郡と郡役所の増置 /

戸長役場

3 町村制施行と三股村

県と北諸県郡の合併案 / 町村の合併と町村制施行 /

三股村の誕生と村議会の開設

4 大正・昭和初期の三股村

史料の少ない三股村時代 / 町村是と町村治要綱

第2章 近代三股の産業と交通

第1節 地租改正

1 改正の基本方針

地租改正条例の公布 / 上長飯村士族・農民屯集事件 /

土地所有者の確定

2 地租改正のもたらしたもの

入会地・共有地の国有化 / 地域住民の抵抗 /

宮村の抵抗 / 長田村の抵抗

3 秩禄処分

地域の中心を担い始めた元郷土たち

第2節 道路の整備と鉄道建設

1 交通網の整備と近代化

都城県の道路網の整備 / 番所・辺路番所の廃止 /
人力車・馬車・荷馬車の登場

2 鉄道の建設と三股駅の誕生

鉄道敷設の開始 / 三股駅の誕生

第3節 水利事業の展開と農業

1 用水路の開削

海戸用水路 / 石寺原用水路 / 赤松用水路 / 御幸原用水路 /
大野用水路 / 走持用水路 / 牧野用水路 / 天木野用水路 /
温川原用水路 / 轟木用水路 / 折付用水路 /
樺山用水路（福留用水路） / 五本松用水路（矢ヶ淵用水路） /
細目用水路 / 早馬下用水路と本幹線水路 / 山手幹線水路 /
稻荷下用水路、新溝用水路、三股用水路

2 ため池の整備

宮田池 / 大谷池 / 前山池、上園池、堂領池 /
田上池谷池、迫間池、餅原池の谷池、三原池

3 沖水川の治水

暴れ川が川筋で暮らす人々にもたらしたもの /
手をこまねいていたわけではないが /
本格的治水工事の始まり / 根本的治水対策の実施

第4節 三股の諸産業

1 養蚕業の発展

蓼池村が養蚕の中心地に / 県行政も養蚕業の振興を後押し /
北諸県郡は宮崎県の養蚕の中心地に / 三股の製糸業の発展 /
繭とさなぎの臭い、桑の葉いきれと蚕糞の臭い /
世界大恐慌の影響 / 桑園からラミー畑への転換

2 畜産業の発展

明治初めの頃の三股の家畜数 /
肉食の広がり、屠牛禁止から許可へ /
家畜飼育頭数の変化、質的变化をもたらしたもの /
乳牛と豚の飼育が広がる / 馬と荷馬車の役割

3 林業の発展

三股の林産物 / 役に立たない木は切り倒せ /
国有林下げ戻し後に盛んになった造林 / 野崎村長の時代 /
宮田村長の時代 / 大河内町長・桑畑町長の時代

4 紙漉き

三股の紙漉きの始まり / 紙漉きの盛衰

5 わさびの栽培

第5節 松山家文書から見える明治時代の人々の暮らし

1 松山家と松山家文書

2 日記から読み解く長田地区の暮らし

米作りの四季 / 水路開削と新田作り / 米卸し

コラム③ 稲作立毛品評会

畑作 / 堆肥づくり / 山林の仕事 / 明治時代の人々の楽しみ /

学校作り・橋げた引き

3 米を買いにくる人々、地主と小作人

コラム④ 清潔検査

4 三股村農会で決めた日稼ぎ賃金

5 地域の人々のつながり・助け合い・もえ(頼母子講)・信仰

コラム⑤ 曾孫がみた司じいさんと亀助じいさん

第3章 文教三股の萌芽

第1節 近代の教育へ

1 学制の公布と三股

学制の公布とその目的 / 諸藩の藩校の廃止 /

都城県郷校の設立と下三俣郷校 / 郷校から小学校への移行

2 三股地域の小学校の設立とその設置場所

学制公布前の学校 / 学制公布後の三股地域の学校

3 学校運営の諸問題

教員確保と教員養成 / 学校経費と授業料 / 小学規則

コラム⑥ 宮崎県の小学規則

女兒小学 / 就学状況

第2節 教育令から小学校令への変遷

1 学制の廃止と教育令

鹿児島県への併合 / 教育令の公布 / 三股地域の小学校 /

宮崎県再置時の教育状況 / 就学状況

2 小学校令と義務教育制度の確立

小学校令の公布 / 中学校令の公布 / 師範学校令の公布

3 教育勅語と教科書国定制度

教育勅語の発布 / 教科書国定制度

4 就学率の向上

小学校令の改正（第二次小学校令）と簡易科小学校の廃止 /
就学率の向上 / 小学校令の改正（第三次）と就学率向上の背景 /
三股村の尋常高等小学校の設置奨励と義務教育六年制
コラム⑦ 明治時代の運動会プログラム

5 中等諸学校の整備と社会教育

県立都城中学校の新設 / 実業教育 / 壮丁教育 / 実業補習学校 /
青年会 / 龍雲館 / 師範教育令の制定

第3節 大正期の教育改革

1 明治から大正へ

教育勅語・御真影の下賜
コラム⑧ 御真影の下賜

2 新教育運動

教育運動の始まり / 三股村の小学校の状況

3 中・高等教育の拡充

中等教育 / 実業学校 / 師範教育 / 高等教育の拡充

4 軍縮と学校での軍事教練の成立

第4節 昭和・戦前期の教育改革

1 恐慌と学校教育

大正から昭和へ / 恐慌の教育への影響

2 戦時体制の教育への影響

思想統制の強化 / 奉安殿建設と御真影 / 戦時体制の始まり /
龍雲館の分離による正道館の開設 / 昭和期の師範教育

3 戦争の長期化と国民学校の発足

日中戦争の長期化と第二次世界大戦の勃発 /
思想の強化と「青少年学徒二賜ハリタル」勅語 /
国民学校令の公布

4 第二次世界大戦の戦局の悪化による戦時教育

修業年限の短縮と連合演習 / 学徒勤労動員 /
学徒出陣と戦時非常措置 /
空襲の激化と学童集団疎開

5 終戦

本土決戦態勢と学校への軍隊配置 /
三股国民学校分散教育場 /
空襲による学校焼失と終戦

第4章 戦争へのあゆみ

第1節 明治期の戦争

1 日清戦争と三股

三股の出征者 / 戦病死者と救護事業

2 日露戦争と三股

三股の出征者 / 戦争に関する行事 / 日露戦争の戦費 /
戦病死者と救護事業 / 戦争の終結 /
歩兵第六十四連隊の設置と戦後の動向 /
戦争の記憶を伝える三股の石碑

第2節 大正期の戦争

1 第一次世界大戦と三股

三股の出征兵士

コラム◎ 松山司の満州・朝鮮視察

2 米騒動と北諸県郡や三股村の救済事業

米騒動の勃発 / 救済事業の始まりと北諸県郡 /
本格的な救済事業と三股村

3 第一次世界大戦の終結

パリ講和会議とヴェルサイユ条約 /

ワシントン会議と海軍軍縮 / 陸軍軍縮問題

第3節 日中戦争と三股

1 相次ぐ恐慌と天災による農村の疲弊

戦後恐慌と関東大震災から金融恐慌へ /
世界恐慌と農村の疲弊

2 大陸の戦火と三股

山東出兵と都城歩兵第二十三連隊 / 満州事変 /
第二十三連隊の満州派遣 / 第一次上海事変 /
陸軍特別大演習と三股 /
日中戦争と第二十三連隊 /
戦線の拡大と第二十三連隊

3 戦争の長期化と新体制運動

国民精神総動員運動 /

紀元二千六百年記念事業 / 新体制運動 /

戦時経済体制の強化

第4節 太平洋戦争と三股

1 第二次世界大戦の勃発と太平洋戦争への突入

第二次世界大戦の勃発 / 太平洋戦争の開始 /
第二十三連隊の中国での動向 /
第二十三連隊の南方転進 /
戦局の転換と第二十三連隊の動向

2 総力戦と崩壊する生活

衣料切符制 /
コラム⑩ 代用食・代用品
労働力の徴用 / 貯蓄運動 / 政府の人口政策

3 都城東飛行場の建設と特攻隊出撃

都城東飛行場の建設 / 東飛行場関連施設 /
特別攻撃隊の出撃

4 空襲の激化と終戦

本土初空襲 / 宮崎初空襲と都城への空襲 /
三股の遭難戦没者 / 本土決戦態勢 /
終戦 / 三股の忠魂碑